



地域支援センターだより

地域支援センターやわた

第2回「スキルアップ研修会」を実施しました。

第2回目のスキルアップ研修会も、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、12月22日（木）にオンライン形式で行い、1月10日（火）から1月30日（月）まで、アーカイブ配信にて実施いたしました。

講師は、大阪教育大学大学院連合教職実践研究科の准教授 庭山和貴氏で、「子どもの気になる行動の理解と援助～園・学校で役立つ応用行動分析にもとづいたポジティブ行動支援について～」という演題で御講演いただきました。

今回は、地域支援センターやわた圏域の保・幼、小、中、高等学校、特別支援学校の先生方、その他関係機関の職員の方々232名と本校教職員を視聴対象者として、474回の御視聴をいただくことができました。



講義ではまず、ポジティブ行動支援の基本的な考え方と実践例を具体的に御紹介いただき、学級や学校規模で支援を行うにはどうしたらよいか、学級・学校規模のポジティブ行動支援だけでは難しい児童生徒への個別の支援などについても教えていただきました。日々の指導の中で、困った行動への事後的対応から一歩進んだ望ましい行動を増やすアプローチについて実践したい内容が盛りだくさんの研修会となりました。

御参加いただいた方からの感想（一部抜粋）

- *改めて自分自身の保育を見直し、幼児への関わり方や望ましい行動を増やすアプローチを行っていくことが大切だと感じました。幼児の様子から、自分自身にとって「困った行動」と捉えてしまっていることもあったので、幼児の姿を記録したり見直したりしてしっかりとポジティブ行動支援ができるように改善できることから取り組んでいきたいと思う。（幼・保・こども園）
- *困った行動にどうしても目がいってしまいがちですが、ポジティブフィードバックを心がけていきたいと思いました。でも、甘やかしとの違いもきちんと考えていたり、叱ったり注意したりしてはいけないわけではない、ということにととても納得できました。実際のデータを見て驚きましたが、望ましい行動を増やすことで困った行動が自ずと減っていくことがわかりました。（小学校）
- *ポジティブ行動支援をどのように同僚と共有し、実践すればよいかがわかりました。（中学校）
- *ポジティブ行動支援とは考えていなかったが現場でできていること、やっちはいるが周囲の同僚に説明できず共有できていなかったこと、明日からやってみたいことなど、元気の出る宝箱でした。現場をご覧になっているからこそその具体的なアドバイスと実践報告があり、説得力がありました。同僚同士の達成感の共有が動機になるのは実感的に大変よくわかります。（高等学校）
- *子どもの問題行動の意味を丁寧に分析し、プラスの行動に変換させていくための指導について、具体的にイメージできるようにお話しいただき、とても勉強になりました。（特別支援学校）
- *学校現場とは違いますが、取り組めるところはたくさんありました。遊びを中心に日常生活の指導の部分が大きいのですが、指示の出し方、言葉かけを具体的にしてみたいです。また、記録をもっと取り、それを振り返りに活かすということが必要と考えました。（関係機関）